あかびら市議会

KA か WA わ RA ら BAN 版

2016.07.01 No.38

議会の活動Photo

4月26日名寄市議会が訪問　かわら版について

第2回定例会の主な議題

第２回定例会は、６月14日から17日までの４日間の日程で開催され、財産の処分や補正予算など議案13件、意見書案５件を原案可決し閉会しました。また、16・17日の２日間にわたり、７名の議員が次のとおり一般質問を行いました。（詳細は裏面で）

5月18～19日新得町と名寄市へ行政視察　手話について

議会報告と意見交換会のお礼

６月7日～24日にかけて市内１２ヶ所で開催しました、議会報告と意見交換会には、多くの市民の皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございました。

次回、特集号にてその内容をお伝えできるように準備を進めていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

6月7～24日議会報告と意見交換会（市内１２ヶ所にて）

議会の動き

３月

3/28　議会運営委員会
3/30　第2回臨時会

４月

4/13　行政常任委員会
・炭鉱遺産について/赤平市公共施設等総合管理計画について/地方税制改正の概要について/統合中学校に係る経過報告について
4/13　議会改革検討協議会
4/26　名寄市議会 議会報特別委員会 行政視察
4/28　行政常任委員会
・あかびら市立病院の経理状況(1・2・3月分)について
・赤平市民間賃貸住宅家賃助成事業の拡充について
・保育所使用料について/６次産業化に向けた取り組みについて
4/28　議会改革検討協議会

５月

5/18～19　行政常任委員会 行政視察　（新得町・名寄市）

６月

6/ 2　行政常任委員会
・炭鉱遺産公園について/国保会計の決算見込及び運営協議会の協議内容等について/調査第３号 手話言語の環境整備について
6/ 2　議会改革検討協議会
6/ 7～8　議会報告と意見交換会
6/ 9　議会運営委員会
6/14　議会運営委員会　　6/14～17　第２回定例会
6/15　行政常任委員会
・赤平市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について/赤平市国民健康保険条例の一部改正について/赤平市地域コミュニティセンター設置条例の一部改正について/中空知広域市町村圏組合規約の変更について/財産の処分について/調査第３号 手話言語の環境整備について
6/20～24　議会報告と意見交換会

☆★☆意見書 5件可決　（第２回定例会にて）

①次期介護保険制度改正における福祉用具、住宅改修の見直しに関する意見書　②骨髄移植ドナーに対する支援の充実に関する意見書　③道教委「新たな高校教育に関する指針」の見直しとすべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める意見書　④「要介護１・２の保険外し」を中止し、安心・安全の介護保障を求める意見書　⑤日本政府に核兵器全面禁止の為の行動を求める意見書

編集後記

６月定例会が終わり、ホッと一息。
ここ最近の天気はすっきりと晴れた日が少ないようですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。
さて、北海道はこれからが夏本番。植物や動物たちが最も活動的な季節を迎えました。赤平最大の行事、「火まつりや花火大会」もすぐそこまで来ています。短い夏ではありますが、市民の皆さんが躍動している姿を見るのが楽しみです。（五十嵐）

かわら版編集委員会　植村・五十嵐・向井・木村・御家瀬

※このかわら版のお問い合わせは、赤平市議会かわら版編集委員会　TEL32-1858までお願いいたします。
また、赤平市議会のホームページでもご覧いただけます。

日本共産党

木村　恵

【質問】保育所の現状について　全国的に隠れ待機児もいるようだが、赤平市の待機児は本当にゼロなのか。また安倍政権は緊急措置として、認可外を増やす、保育士一人がみる乳幼児の数を引き上げるなど、詰め込みで乗り切ろうとしているが、自治体によっては子供の安全や成長・発達を保障するために国の基準に独自で上乗せしているところも少なくない。赤平市の保育の現状はどうなっているのか。

【答弁】文京・若葉保育所の定員は合計120名で現在111人の子供が入所している。文京保育所で定員を超えているが、市全体では待機児童はいない。保育業務に携わる職員28名中26名が保育士または幼稚園教諭の資格保有者で、配置基準も下回らないように対応している。保育所は子どもの命を預かる場であることから、今後も保育の質を低下させず運営していきたい。

【質問】認定こども園と保育料無料は市長公約だが任期中にできるのか。

【答弁】子ども園は小学校の統合後となることから3年以内での開設は非常に厳しい。また、保育料無料化は子ども園への移行による効率化された財源をもとに検討している。今後、子ども園開設、保育料無料化の時期については明確に示していきたい。

民主クラブ

伊藤新一

【質問】内科医師の確保と診療体制について伺う。

【答弁】現在4名による診療体制だが、内科医については5名体制が適正と考えている。引き続き医師確保のため、情報収集に取り組んでいく。眼科、耳鼻科、泌尿器科、皮膚科などについては出張医による応援体制をいただいており、現状においては最大限の協力をいただいているものと判断しているが、患者の利便性向上のため、引き続き関係各位に対し要望していく。

【質問】市内在住の生活困窮家庭の子供のために、学習支援事業が必要と思うが考えを伺う。

【答弁】事業の委託先や子供への指導者を確保するため、高齢者人材バンクを活用したり、赤平から進学している高校生や大学生に指導してもらう方法など、赤平の子供にとって効率的なものを検討していく。

【質問】高齢者ドライバーの事故が増え、運転免許証返納者に対して補助をする自治体も増えているが、補助制度を考えているのか。

【答弁】赤平市ではJRや中央バス、タクシー会社が営業しているほか、生活協同組合コープさっぽろによる無料買い物バスが運行されており、一定程度の交通手段は確保されていると判断している。今後慎重に検討していく。

新政クラブ

御家瀬　遵

【質問】平成22年度以降一つの住棟で高齢者、障がい者、子育て世帯が共に生活できる混在型公住建設戸数と世帯別入居状況を伺う。

【答弁】7棟68戸建設。そのうち高齢者45世帯、障がい者17世帯、子育て3世帯である。

【質問】混在型公住とシルバーハウジングの併設について伺う。

【答弁】新たな住棟の建設は、公営住宅等長寿命化計画に基づき、現在進めている建替事業等との整合性から難しい状況にある。

【質問】最近のシルバーハウジング入居率はほぼ100％のため、空き待ちで入れない。空白地区である茂尻に新設できないか伺う。

【答弁】公的住宅建替事業は財政事情から一年一棟としている。今後、人口規模に見合った良質な公的住宅が求められている。

民主クラブ

向井義擴

【質問】市有地の活用について、市の遊休地は活性化のためにも、積極的に売却、貸与など民間利用などを進めるべきではないか。

【答弁】これからの公共施設全般の基本計画を定める「赤平市公共施設等総合管理計画」において施設用途別の基本方針で定められていない遊休施設、遊休地は基本的に売却を目指すことになっている。

【質問】都市計画の見直しについて、今後コンパクトな街づくりを進めるためにも見直しが必要ではないか。

【答弁】街づくりの具体性のある将来ビジョンを確立し、地区別のあるべき「まち」の姿を定める都市計画マスタープランの次期計画の見直しを、総合計画との整合性から平成30年度に実施する予定である。

【質問】市の事業全体にＰＤＣＡサイクルを取り入れてはどうか。

【答弁】赤平市しごと・ひと・まち創生推進本部を発足し、４つの基本目標に合わせた専門部会及びワーキンググループを設置して、ＰＤＣＡサイクルによる協議を行っていくことになっている。

市政や行政全般にわたる重要政策に関するものについては、組織体制の中で作業を進めていく。

民主クラブ

若山　武信

【質問】当市は今後の最重要課題に人口減少対策を掲げているが、基本となる産業の活性化、特に地元企業への支援策の考え方と現状を伺う。

【答弁】「地元産業の強みを活かした雇用確保と地域産業の振興」について平成27年度からの5年間で各施策を図っており、赤平の企業を紹介した情報誌の発行や各企業のインターシップの受け入れ、近隣高校への合同企業説明会の実施、また、企業振興促進条例にて投資額や雇用に対する助成、課税免除、中小企業融資条例での運転資金や設備資金の融資、保証料の補給、利子補給についても行っている。

【質問】炭鉱遺産構想と赤平炭鉱立坑櫓取得について

50数年を経た立坑を取得・所有し、修復するとなると多額な予算を費やし、かつ維持費も数十年に亘っての負担となると思われるが、「取得により変わるそれぞれの価値観」「国や道の財政支援の見通し」「産炭地連携の見通し」「市民レベルの協議の必要性」「維持存続の可否」これらについて伺う。

【答弁】総合戦略施策として立坑櫓周辺までの民有地を含めた活用が位置づけられている。立坑櫓等の炭鉱遺産の取得は必要不可欠である。今後、発足予定である「炭鉱遺産活用検討協議会」において基本構想を策定し、旧産炭地域とのあり方、国や道の財政支援、その他様々な課題について協議をしていきたい。また、多額の財政負担となるような事業展開や市民に大きな負担を強いるようなことは想定していない。基本構想を策定して計画的に実行していきたい。

夢現会

竹村恵一

【質問】市道管理のあり方について

① 携帯端末利用の導入について伺う。

【答弁】多くの利用者から端末の利用で視覚的な情報も得られ、緊急度も判断しやすく、有効な手段と思われるので今後、費用やセキュリティ面 など調査・研究し導入について検討する。

② 郵便局との協力体制について伺う。

【答弁】一度覚書を交わしているが、解除になっているので、早期に道路の損傷、危険個所の把握には効果的と考えるが、郵便局との協力が必要。手法の検討を行う。

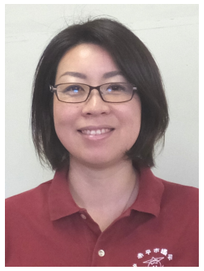
【質問】福祉政策の考えの中で、企業と連携した高齢者の見守り体制について伺う。

【答弁】今後人口減少が進み、人手不足となった場合に有効な手段と考える。当面は地域と連携した見守り活動に取り組みたいと考える。

【質問】子どもの貧困と教育格差について伺う。

【答弁】学力向上を図るために、通常の学校授業において、「わかる授業の構築」「教師力の向上」が不可欠で、原点だと考える。また、補完的役割を担う家庭学習や保護者の意識改革の変革も必要と考える。 学力向上委員会の中で各世帯の状況や格差の実態把握に努め、どのような改善策が必要か協議する。施策によっては市の福祉部局等と連携を図り進めていく。

夢現会



植村 真美

【質問】Wi-Fiサービスについて　新しい観光客獲得を図るためにWi-Fiの利用できる空間を整備してはどうか。

【答弁】観光施設であるエルム高原リゾート、赤平ベースには整備していない。各施設の利用ニーズや必要性、優先順位等を勘案しながら検討していく。

【質問】庁舎案内の工夫と総合案内の仕組みづくりについて　来庁者にわかりやすい案内看板の設置と総合カウンターを設けて、電話を設置し、直接各担当に問い合わせができる仕組みづくりを進めてはどうか。

【答弁】入り口付近を整理し、案内板を設置しお客様の目に付くよう工夫していく。また、案内板に内線番号を記載、カウンターに電話を配置するなど、お客様の利便のため、検討していく。

【質問】子どもカルテの導入の検討について　障がいを持っている子どもが乳幼児から幼少期、就労に至るまで地域で記録、見守る体制づくりを強化するために、子どもカルテを導入してはどうか。

【答弁】「子育て総合相談と支援体制の確立」を目指していることから、さらによりよい連携や支援体制のあり方を保健、福祉、医療、教育の関係者及び当事者の方たちと検討していく。